

## 令和7年度 県立水戸高等特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像		◆生徒が毎日通うのを楽しみだと思える学校 ◆教職員が誇りと自信、やりがいをもって勤務できる学校 ◆保護者が生徒を安心して通わせたいと信頼される学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、校務や授業のDX化を進めたことで、教材のデジタル化や協働学習、生徒の情報活用能力の育成に成果が見られた。</li> <li>先進校の事例を基にしたコミュニティ・スクールの計画立案や、不祥事ゼロの継続、職員の声を反映した働きやすい職場環境づくりが実現できた。</li> <li>ICT機器や環境の整備不足や、生徒間のICTトラブル、メンタルケア研修の実務への落とし込みなどの課題に対する持続的な取り組みが必要である。</li> <li>生徒が主体的に学べるような授業づくり、社会とのつながりを意識した学習活動の充実、職員への継続的な研修や管理職からの投げかけを通じたコンプライアンス意識の維持・向上等を図る必要がある。</li> </ul>	1	地域に開かれた学校とセンター的機能の充実 【「つながり」の強化】	①コミュニティ・スクール導入による地域と学校のWin-Winの関係づくり ②情報発信による理解啓発の推進 ③地域の小中学校等への積極的な支援 ④PTAや地域、教育・医療・福祉等の関係機関と連携した活動の推進		A	
	2	心身共に健康な生徒の育成 【「こころ」の教育】	①発達段階や障害の特性等を踏まえた道徳教育の推進 ②生徒が主体となった自発的、自治的活動の工夫 ③交流及び共同学習の内容の工夫 ④スポーツ、文化・芸術的活動への積極的な参加		A	
	3	安全・安心な教育環境の徹底 【「あんしん」な環境】	①安全点検等の徹底による事故や感染症の未然防止 ②自分や他者の健康や安全、自己管理能力を育てる指導の工夫 ③いじめ防止、情報モラルの取組の強化 ④校内の相談・支援体制の充実 ⑤防災教育の推進 ⑥行事・業務内容の見直し改善等、働きやすい環境の整備と充実		B	
	4	日々の授業の工夫・改善 【「まなび」の充実】	①授業の工夫・改善による主体的・対話的で深い学びの実現 ②ICTを活用した学習活動の充実 ③生活年齢と障害特性に応じたカリキュラム・マネジメント ④専門家との連携や研修等による教員の専門性の向上 ⑤現場実習等を含めた職業教育の充実 ⑥寄宿舎の魅力度アップ		A	
	5	コンプライアンス遵守の徹底 (飲酒運転・情報漏洩・体罰ゼロ)	①飲酒運転をしない・させない体制維持 ②配布物、メール送信の複数人チェック・机上等、身の回りの整理整頓 ③体罰禁止の意識の浸透・人権意識の向上		A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
教務	・スローガン【楽校をつくる】の実現相互に高め合う指導力の向上	・「つながりをつくる」「こころをつくる」「あんしんをつくる」「まなびをつくる」の4つの柱を重点項目に据えての、各分掌等での実践 ・計画訪問や校内研究、年次研修の授業研究を活用した授業の評価・改善		全	A	○教職員の指導力が向上し、生徒の学びや学校全体の教育の質が着実に向上した。●分掌間の情報共有や授業改善の成果を学校全体へ波及させる仕組みづくり。◇情報共有や研修の機会としての定

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家派遣事業の活用による研修</li> <li>・コミュニティ・スクール運営による地域との連携強化</li> </ul>			期的な教科会の実施や教員間の授業参観、分掌部長連絡会などの実施。
ICT 推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における ICT 機器活用率の向上</li> <li>・ICT 学習環境の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用した支援方法の研究推進</li> <li>・タブレット端末を活用した課題や宿題の提示</li> <li>・情報モラル教育の充実</li> <li>・生徒一人ひとりの学習状況に応じた ICT 機器や学習環境を整備する。</li> <li>・GoogleWorkspace 等のアプリケーションを活用した協働的な学びの促進、情報活用能力の向上を図る。</li> </ul>	3-③ 4-① ② ④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習支援アプリの研修会を実施した。○全生徒がタブレット端末で学習できる環境を整備した。</li> <li>○GoogleWorkspace やロイロノート等のアプリを活用して生徒の学習管理ができた。◇ICT 機器を活用して、個別最適化された学習・活動を提供する。</li> </ul>
PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 活動の充実</li> <li>・会員相互の交流の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が主体的に活動できるよう PTA 各種委員会の活動を工夫する</li> <li>・保護者会では意見交換の場を設け PTA 会員相互の交流が深まるよう工夫する</li> </ul>	1-④	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種委員会の委員の役割分担をし、主体的に活動できるように工夫した。○学年委員会が情報交換会を主催し、会員相互の交流を図ることができた。●活動内容を見直し適正な活動量に改善することが課題である。</li> </ul>
スポーツ・文化交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ競技会や美術作品展への積極的な参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特体連スポーツ競技会参加を部活動単位とした円滑な運営</li> <li>・特推連事務局（2年目）の運営</li> <li>・いばらきパラアーティストフェスティバル美術展の作品出展及び事務局運営</li> </ul>	2-④	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツ競技会の参加や美術展の出品ができた。</li> <li>○美術展運営を運営委員の協力を得て、事務手続きや当日の対応と滞りなくできた。</li> </ul>
総合支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中高等学校への支援も含めた学校見学や教育相談の実施</li> <li>・生徒・保護者、地域行政・福祉、医療等の関係機関とのケースに合わせた支援会議の充実</li> <li>・学習内容に合わせた交流及び共同学習の継続と実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校に興味を持つ児童生徒、保護者、教員への学校見学を実施</li> <li>・支援が必要なケースは見学時の相談支援や巡回相談、他校からの巡回相談につなげる</li> <li>・特別支援教育推進体制充実事業でのコーディネーター会議に参加し、地域の小中学校の特別支援教育の実態を把握する</li> <li>・支援が必要となる本校生徒への関係機関と情報交換、連携強化のために支援会議を長期休業中、必要に応じて随時実施する</li> <li>・専門的技術を互いに経験し、尊重し合うことができる学校間交流を企画する</li> <li>・地域の方々との親睦と交流を深められるよう、地域主催の行事への参加できるよう連携を図る</li> </ul>	1-③ ④ 2-③ 3-④	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校見学、教育相談は計画通り実施できた。外部機関との連絡会は必要に応じて実施できた。学校間交流や地域行事参加も問題なく参加し有意義だった。○Co. 会議は市町村により実施内容が異なるため、伊奈特支の Co. と連携を図りながら参加した。○県内全域が学区のため地域に密着することは他校より難しいが、市民センターやマルシェの活動をとおして実施できている。●Co. 会議は小中学校の状況を知るためにも引き続き参加したい。●校内支援会議の体制を来年度は見直し、生徒支援、学年と連携して小ケース会議として実施したい</li> </ul>
安全指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育・防災教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を行い危険箇所等の把握や修繕を図る</li> <li>・体験的な安全教育・防災教育を取り入れる</li> <li>・防災及び危機管理マニュアル等について、随時見直しを図る</li> </ul>	3-① ② ⑤	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練後、随時避難経路の見直しにつなげることができた。●マニュアルの見直し、改正。◇地域、関係機関と連携し、訓練や防災教育を充実させたい。</li> </ul>
保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病予防対策の充実</li> <li>・健康の自己管理能力を育む指導の充実</li> <li>・生徒情報の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症や感染症の発生状況の周知と具体的対策の提示</li> <li>・てんかん及び食物アレルギー発生時のシミュレーション訓練の実施</li> <li>・生徒委員会活動を通じた啓発活動と自己管理能力に導</li> </ul>	3-① ② ④	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT 機器や保健日誌などの情報共有ツールの活用による、疾病予防の注意喚起と生徒情報の共有</li> <li>●清掃活動の見直しや生徒会活動の活用による教</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>く教材の作成</li> <li>・詳細な保健室来室記録と関係職員への迅速な報告・連絡・相談</li> </ul>			育環境の整備
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律性の育成と安心できる学校環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なアンケート等の実施（生徒・保護者）、SOSの早期発見と相談体制の充実</li> <li>・いじめ防止、情報モラルの意識を高める啓発活動</li> </ul>	3-③	B	<p>○生徒、保護者への生活アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応等することができた。また、オンライン相談窓口を開設し、生徒がいつでもSOSを発信できる環境を整えた。○いじめ防止に向けた授業（道徳）や携帯電話会社の教材を活用した情報モラルの授業を実施し、生徒の意識を高めることができた。●保護者に向けた、「本校におけるいじめ対応」、「携帯電話の安全な使い方」の説明が不十分であった。◇入学説明会や総会等で「本校におけるいじめ対応」、「携帯電話の安全な使い方」について保護者に説明する場を設定する。</p>
学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性に応じた授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の推進のための研修会実施と授業実践</li> <li>・地域行事やコース活動を中心とした主体的活動の実施</li> <li>・学習活動に有効なICT活用研修の実施と授業の工夫・改善</li> <li>・教科・領域等担当者からの意見集約</li> </ul>	2-① ② 4-① ② ③	A	<p>○道徳、自立活動の研修実施。○チャレンジ2025に関わる地域学習の実施。●意見集約に伴い、次年度教育課程の時数配分が変わるため充実した指導計画を整備する。◇変更のある教科・領域を中心に年間指導計画の変更と評価を行う。◇就労支援事業をとおして就労アセスメントの研修等を行い、授業改善に取り組みたい。</p>
就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者が安心して将来を見据えることができる就労支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業までの進路に関する活動、手続きをわかりやすく提示</li> <li>・企業情報や法制度などの最新の情報の共有</li> <li>・企業・就労支援機関・ハローワークとの連携を強化</li> </ul>	4-⑤	B	<p>○各関連機関への登録については、不足カ所に付箋をつけて説明するなど丁寧に対応。企業情報や法制度など、保護者会を通じて説明。企業へ職場環境の適正化を図るため密に連携を行った。●3年の実習で就労を見据えた実習の意図が上手く伝わっていなかった。◇企業へ3年生実習の目的をより明確に説明できるよう、資料の見直し（フローなどの図を挿入）や就労内部での共通理解をしっかりとしていきたい。</p>
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日課の見直し</li> <li>・生活課題の明確化</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の使用時間の見直しを図り、寄宿舎生の人間関係構築を図る取り組み</li> <li>・自立に向けた入浴体制の取り組み</li> <li>・生活課題を明確化し、学校・家庭の連携を図りながら支援を行う</li> <li>・自己管理能力の向上を図り、生活習慣の確立を図る</li> </ul>	4-⑥	B	<p>○携帯電話の使用時間の拡大とルールへの順守について話し合い、考える場面を設定した。また、携帯電話の使用時間についても見直しを行った。○学校・家庭との連携のための記録方法を変更し、改善を図った。</p>

働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校平均超過勤務時間の低減</li> <li>・働きやすい職場環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方サポートカードを活用した業務改善</li> <li>・随時の分掌事務の変更や行事、業務の見直し・廃止</li> <li>・電話連絡業務の縮減</li> <li>・外部団体への業務委託</li> <li>・職員へのメンタルヘルスケア等の研修の充実を図る</li> <li>・働き方サポートカードを活用した業務整備を進める</li> </ul>	3-⑥	B	<p>○随時、行事や業務見直し、廃止を実施。自動音声電話の導入により電話業務を縮減できた。○超過勤務者が減り、学校全体としても月労働時間が減ってきている傾向にある。◇働き方サポートカードで職員の声を拾いながら職場環境の整備を行った。引き続き継続していきたい。</p>
コンプライアンス確保	教職員全体のコンプライアンス意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事案情報、未然防止策などの共有</li> <li>・学年、専門教科、部活動など各所属間での風通しの良い環境の醸成</li> <li>・全体研修の実施（年6回）</li> </ul>	5-① ② ③	A	<p>○教職員のコンプライアンス研修、年3回のセルフチェックを実施し、不祥事の発生防止につなげた。●引き続き、組織的に風通しの良い環境の醸成を図っていきたい。◇リスクに対する情報共有や部活動顧問会議の活用などにも取り組みたい。</p>

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない